

会議記録簿

生涯学習部社会教育課

会議名	文化財審議会		
日時	平成15年5月29日(木曜日)13時00分~15時30分	場所	総合保健福祉センター 5階会議室
出席者	下津谷委員長、新山副委員長、小川委員、桑原委員、佐藤委員 事務局：教育長、中台部長、戸松次長、犬塚文化係長、三石、林		
配布資料	別添資料のとおり		
会議内容	<p>委嘱状交付：教育長 事務局職員紹介(平成15年4月1日付着任の中台部長)：係長</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会：係長 2. 教育長あいさつ 3. 役員選出：係長 委員長に下津谷委員、副委員長に新山委員を選出 4. 委員長あいさつ 5. 副委員長あいさつ 6. 議 題：委員長 <p>(1) 平成14年度文化財保護関係主要事業について(資料1)：事務局 ・質疑応答無し</p> <p>(2) 平成15年度文化財保護関係主要事業について(資料2)：事務局 ・市内遺跡発掘調査は事前に発掘場所が決まっているのか。 決まっていない。開発に伴って調査を実施する。</p> <p>(3) 粟野地区公園整備予定地の活用方法について(資料3)：事務局 (午前中、みどりのふれあい室職員と委員及び事務局で粟野地区公園勉強会資料をもとに公園予定地を視察した。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年位前に森林調査法により調査を行っている。(一部) ・高木・亜高木・低木・草本の層ができています。森の生態系の模範的な場所である。典型的ないわゆる“里山”である。 ・元は松林だったが、マツクイムシの害で、松はほとんど枯れてしまった。 ・2次林が大きく育っているので、草刈などの手を入れる必要がない。 ・市内で希少の植物も自生しているので、保護も必要だが、ヤマはさわらない方がよい。 ・自然な森の存続 人間との係わり合いについて根本的な理解がなければならない。 ・各種意見があると思うが(植物等についての)専門的な意見は通さなければならない。 ・資料館なども建物以外のヤマ、モリ、田、畑の財産を持つべき。 ・トイレとベンチで他は極力要らない(不要な滞在や集まりの温床となる可能性がある)。 ・安全管理について、設備と対処を考えるべき(多方向からの出入できる構造)。 		

<p>会議内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・解説について（個々の木にネームプレートなどはないが、森（全体）については必要） ・道路幅は最低限で（広いとバイクが入ったりする） ・湿地側の孟宗竹は繁殖力が強いので何らかの策を講じないと他の植物に影響がでる。 ・市民参加型の維持管理は当初のリーダー・メンバーがいなくなると活動が縮小してしまうことがあり難しい。長期的な面で心配な部分があるので、継続的な検討をしてほしい。 ・今あるものがなくならないように（植生を草本に至るまでよく調べる） ・無理な植生は手入れが大変だし、枯れてしまう。 ・計画が途上段階ということなので、追い追い話をうかがっていきたい。 <p>(4) その他</p> <p>市指定文化財「魚文の句碑」の柵・標柱が破損したため修繕した。（資料35～37）</p> <p>佐津間の渋谷家についての現状での調査状況を報告。（資料38、39）</p> <p>佐津間 渋谷家 屋敷について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住中の渋谷ミエ氏も息子さんも屋敷を残すことに前向きであることがわかったが、渋谷ミエ氏が高齢のため、先々相続の問題が生じてくる可能性は高いと思われる。指定になっていないので、残すのは難しい。渋谷家とは今後も交流を保って行って欲しい。 ・日本民家リサイクル協会はどのようなところなのか。一箇所に偏ることなく意見を集約して行って欲しい。 <p>小金中野牧の込跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い上げも含めて検討できないかとも思うが、こういう財政状況では難しいと思われる。 ・所有者の管理が大変であるから、何らかの残す方法を考えていかなければならない。 <p>7. 閉会：委員長</p>
-------------	--